



お父さん、お母さんのための One Point 講座

No.1



『子女教育の目標』

自分の子どもたちがどんな人間に育って欲しいかは、親によって異なります。

「信仰のある子どもになって欲しい」「愛がある優しい子に育って欲しい」

「勉強のできる優秀な子になって欲しい」「お金持ちになって欲しい」

「家の仕事を継いで欲しい」「幸せな結婚をして立派な孫を残して欲しい」・・・等

子どもにこうなって欲しいと願う中で、親の生活習慣やクセによって子どもはさまざまな影響を受けるのです。親の実態を見て育つので、子育ての秘訣は親の生活の中にあるとも言えます。まさに子どもは、「親の腹の底の芸術作品」なのです。

天の願いは何か、親の願いは何か、そう思いながら「子育てはなかなか願った通りにならないなあ」と感じられることも多いでしょう。その時、人間を創造された時の神様の願いを思い返してみてください。

旧約聖書の創世記に三大祝福が記されています。

- ① 生めよ
- ② 増えよ
- ③ 地を従わせよ 　　です。

天の願いはこの三大祝福の記述に集約されている通り、「個性完成せよ」「子女繁殖せよ」「万物主管せよ」という3つなのです。置き換えれば「人格を完成して」「理想家庭を築いて」「天国実現しよう」と言うことになるので、『立派な人間になれよ』『幸せな家庭を築けよ』『世の中のためになるようなことをするんだぞ』というのが親の願いになるのです。

しかし親の言う通りにならないと、カづくで強制しようといふ余った言葉を口にしてしまいます。

(裏面に続く)



結婚して素晴らしい家庭が築けるように、大人へのステップを着実に情操教育していくのが目標です。

ですから「何でそんなことができないの」「お母さんはもう情けないよ」と口走ってしまいやすいですが、みんな画一的に規範通りの子に育つわけでなく、神様から与えられた個性や創造性を磨かせていけばいいのです。究極の目標は「心情を育てる」といことになります。

◇心情を育てるには◇

◎日ごろの親とのコミュニケーションがとても重要

◎目に見えない神様を教えること、そして神様を愛することを教える

◎褒める言葉、前向きな言葉で会話し、子どもに自信を持たせてあげる

◎他の子どもにない長所は賛美し、欠点ばかりを否定せず、個性を伸ばそうとさせる

◎大人になっていく中で大切なことは「大きな夢を持つ」「人々の役に立ちたいと考えるようになる」「神様や両親を喜ばせようと思う」という公益精神です

◎家族共同体の文化を示し、兄弟姉妹の愛を育ませ、自然を愛し、世界を愛する天国人へ向けた『二世としてのアイデンティティー』を自覚することで、天から与えられた「自らの摂理的使命」を発見させる

そのためには、この子に必ず神様が愛する1点がある！と親が確信を持つことが重要です。

まず聖日である日曜日に（教会や家庭で）礼拝を捧げることを教え、家族でお祈りし合い、天の伝統を習慣化させていきましょう。

礼拝や祈禱する文化が根付いたら、教会へ行っても二世同士の交流が楽しいと自然に思えるようになります。

※注 【失敗しやすいのは親が感情的になってしまうから】

子どもが規範や躰に対して反抗するのは、何か原因があるからです。いい子になってくれないから怒るのではなく、子どもの行動は親の心が鏡のように映されていると気づかせるためのものです。

悪い感情というのは放っていけば鎮まるものです。親が子どもの行動に感情的にならず、いつも理解者になってあげようと心がけてみて下さい。子どもの微細な気持ちをわかってあげもせずに親が感情的にならないよう、努力していく必要があります。

（世界平和統一家庭連合 岡山家庭教会 子女教育担当資料）